

1 π が超越数であることの証明

補題 1.1. 任意の正の実数 a に対して

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a^n}{n!} = 0$$

証明. m, n を自然数とする. $n > m > 2a$ (例えば $m = [2a] + 1$ とする) ならば

$$\frac{a^n}{n!} = \frac{a^m}{m!} \cdot \frac{a}{m+1} \cdot \frac{a}{m+2} \cdots \frac{a}{n} < \frac{a^m}{m!} \left(\frac{1}{2}\right)^{n-m} \rightarrow 0 \quad (n \rightarrow \infty)$$

□

補題 1.2 (Hermite の不等式). 複素数係数の多項式

$$f(X) = \sum_{n=0}^m \frac{a_n}{n!} X^n$$

に対して

$$F(X) = \sum_{n=0}^m f^{(n)}(X), \quad \bar{f}(X) = \sum_{n=0}^m \frac{|a_n|}{n!} |X|^n$$

とおく. このとき, 任意の複素数 x に対して

$$|F(x) - F(0)e^x| \leq |x|e^{|x|}\bar{f}(x)$$

が成り立つ.

証明.

$$F(0) = a_0 + a_1 + a_2 + \cdots + a_m,$$

$$\begin{aligned} F(X) &= \sum_{r=0}^m f^{(r)}(X) \\ &= \sum_{r=0}^m \sum_{n=r}^m \frac{a_n}{(n-r)!} X^{n-r} \\ &= \sum_{n=0}^m \sum_{r=0}^n \frac{a_n}{(n-r)!} X^{n-r} \\ &= \sum_{n=0}^m a_n \sum_{r=0}^n \frac{X^r}{r!} \end{aligned}$$

ゆえに

$$\begin{aligned} |F(x) - e^x F(0)| &= \left| \sum_{n=0}^m a_n \sum_{r=n+1}^{\infty} \frac{x^r}{r!} \right| \\ &\leq \sum_{n=0}^m |a_n| \sum_{r=n+1}^{\infty} \frac{|x|^r}{r!} \\ &= \sum_{n=0}^m \frac{|a_n| |x|^{n+1}}{n!} \sum_{r=0}^{\infty} \frac{|x|^r}{(n+1) \cdots (n+r+1)} \\ &\leq \sum_{n=0}^m \frac{|a_n| |x|^{n+1}}{n!} \sum_{r=0}^{\infty} \frac{|x|^r}{r!} \\ &= |x|e^{|x|}\bar{f}(x) \end{aligned}$$

□

定理 1.3 (Lindemann). π は超越数である .

証明. π が代数的数であると仮定する . そこで π が整係数の多項式

$$a_0 + a_1 + \cdots + a_n X^n = 0, \quad a_0 a_n \neq 0$$

の根であるとする .

π が代数的数であれば , $\pi\sqrt{-1}$ も代数的数である . 実際 , $\beta = \pi\sqrt{-1}$ とおくと

$$\begin{aligned} 0 &= a_0 + a_1 \frac{\beta}{\sqrt{-1}} + a_2 \left(\frac{\beta}{\sqrt{-1}} \right)^2 + \cdots + a_n \left(\frac{\beta}{\sqrt{-1}} \right)^n \\ &= (a_0 - a_2 \beta^2 + a_4 \beta^4 - \cdots) - \sqrt{-1} (a_1 \beta - a_3 \beta^3 + a_5 \beta^5 - \cdots) \end{aligned}$$

絶対値をとると

$$(a_0 - a_2 \beta^2 + a_4 \beta^4 - \cdots)^2 + (a_1 \beta - a_3 \beta^3 + a_5 \beta^5 - \cdots)^2 = 0$$

ゆえに β は代数的数である .

そこで $\pi\sqrt{-1}$ の次数 (すなわち $\pi\sqrt{-1}$ を根とする最小多項式の次数) を m とし , $\pi\sqrt{-1}$ の共役を $\alpha_1 (= \pi\sqrt{-1})$, $\alpha_2, \dots, \alpha_m$ とする . Euler の公式により

$$e^{\pi\sqrt{-1}} = \cos \pi + \sqrt{-1} \sin \pi = -1$$

であるから , $1 + e^{\alpha_1} = 0$. よって

$$\begin{aligned} 0 &= (1 + e^{\alpha_1})(1 + e^{\alpha_2}) \cdots (1 + e^{\alpha_m}) \\ &= 1 + \sum_{i=1}^m e^{\alpha_i} + \sum_{i < j} e^{\alpha_i + \alpha_j} + \cdots + e^{\alpha_1 + \cdots + \alpha_m} \end{aligned}$$

である . このとき , $\alpha_i, \alpha_i + \alpha_j, \dots, \alpha_1 + \cdots + \alpha_m$ の中で 0 になるものの個数を $q-1$ とし (このような正の整数 q をとる) , そうでないものの個数を l とする . 上の式は

$$(1) \quad q + \sum_{j=1}^l e^{y_j} = 0$$

なる形で書ける . このとき各 y_j について $e^{y_j} \neq 0$ であり , y_1, y_2, \dots, y_l の対称式はすべて $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_m$ の対称式である . $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_m$ の対称式は有理数であるから , y_1, y_2, \dots, y_l の対称式も有理数である . よって $(X - y_1)(X - y_2) \cdots (X - y_l)$ は有理数係数の多項式になるから , 整数 c_0, c_1, \dots, c_l によって

$$c_0(X - y_1)(X - y_2) \cdots (X - y_l) = c_0 + c_1 X + \cdots + c_l X^l$$

となる .

さて , p を $q, |c_0|, |c_l|$ よりも大きい素数とし

$$(2) \quad f(X) = \frac{1}{(p-1)!} c_l^{p-1} X^{p-1} (c_0 + c_1 X + \cdots + c_l X^l)^p$$

とおく． $f(X)$ は有理数係数の多項式である．また

$$F(X) = f(X) + f'(X) + \cdots + f^{(\deg f)}(X),$$

$$\bar{f}(X) = \frac{1}{(p-1)!} |c_l|^{l^{p-1}} X^{p-1} (|c_0| + |c_1|X + \cdots + |c_l|X^l)^p$$

とする．ただし $\deg f$ は多項式 f の次数である．

$$S = qF(0) + \sum_{j=1}^l F(y_j)$$

とおくと，(1) および Hermite の不等式から

$$|S| = \left| \sum_{j=1}^l (F(y_j) - e^{y_j} F(0)) \right|$$

$$\leq \sum_{j=1}^l |F(y_j) - e^{y_j} F(0)|$$

$$\leq \sum_{j=1}^l |y_j| e^{y_j} \bar{f}(y_j)$$

が成り立つ． $M = \max\{y_1, y_2, \dots, y_l\}$ とすると

$$\sum_{j=1}^l |y_j| e^{y_j} \bar{f}(y_j) \leq l M e^M \bar{f}(M)$$

となる．一方，任意の正の実数 a に対して $a^p/p! \rightarrow 0$ ($p \rightarrow \infty$) であるから， p を大きくとるほど

$$l M e^M \bar{f}(M) \leq \frac{CK^p}{(p-1)!}$$

の右辺はいくらでも 0 に近づく．ここで

$$C = l e^M |C_l|, \quad K = |C_l|^l M (|c_0| + |c_1|M + \cdots + |c_l|M^l)$$

である．したがって，十分大きな素数 p を 1 つとって

$$(3) \quad |c_0 S| < 1$$

とできる．

次に，(2) から

$$f(0) = f'(0) = \cdots = f^{(p-1)}(0) = 0,$$

$$f^{(p-1)}(0) = c_l^{l^{p-1}} c_0^p,$$

$$f^{(k)}(0) \equiv 0 \pmod{p} \quad (k \geq p)$$

さらに

$$f(X) = \frac{1}{(p-1)!} (c_l X)^{p-1} (c_l X - c_l y_1)^p (c_l X - c_l y_2)^p \cdots (c_l X - c_l y_l)^p$$

このとき $j = 1, 2, \dots, l$ に対して

$$f(y_j) = f'(y_j) = \dots = f^{(p-1)}(y_j) = 0$$

かつ, ある整係数の多項式 $g_{j,k}(X_1, \dots, X_l)$ が存在して

$$f^{(k)}(y_j) = p \cdot g_{j,k}(y_1, \dots, y_l) \quad (k \geq p)$$

と表せる. $f(X)$ は y_1, y_2, \dots, y_l について対称だから, 各 k について

$$\sum_{j=1}^l f^{(k)}(y_j) = p \sum_{j=1}^l g_{j,k}(y_1, \dots, y_l)$$

は y_1, y_2, \dots, y_l についての対称式になる. よって y_1, y_2, \dots, y_l のある対称式 $h(y_1, \dots, y_l)$ により

$$c_0 \sum_{j=1}^l F(y_j) = c_0 \sum_{k=1}^{\deg f} \sum_{j=1}^l f^{(k)}(y_j) = p \cdot c_0 \cdot h(y_1, \dots, y_l)$$

c_0 の取り方からわかるように $c_0 \cdot h(y_1, \dots, y_l)$ は整数である. よって

$$c_0 S = c_0 q F(0) + c_0 \sum_{j=1}^l F(y_j) \equiv c_l^{lp-1} c_0^{p+1} \pmod{p}$$

素数 p の取り方から $c_l^{lp-1} c_0^{p+1}$ は p で割りきれない. ゆえに $|c_0 S|$ は 0 でない整数である. ところがこのことは (3) に反する. したがって π は超越数でなければならない. \square